

ORIGINAL EROTIC FANTASY COMIC

THE ROVER TOWER

さまよえる塔の
まるの
丸呑みミック



異種族 孕ませ 丸呑み 触手 膨乳 首挿

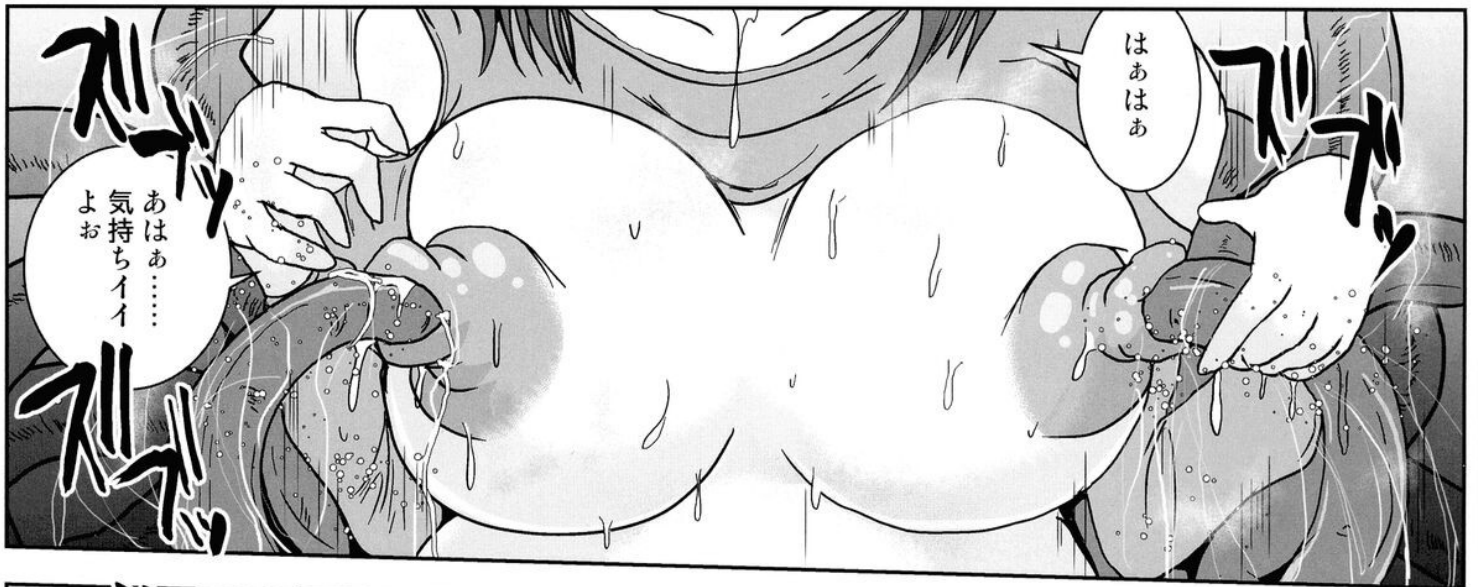
A MONSTER "MIMIC" THAT
MIMICS TREASURE CHESTS.
IS IT POSSIBLE TO GET TREASURE, OR...?

OVER 18 ONLY
らぼた工房



らばた工房
告知用
Twitterです







「彷徨える塔」

本物の
「月の塔」よ

きまぐれに
現れては
消える



驚いた
本当に出てる

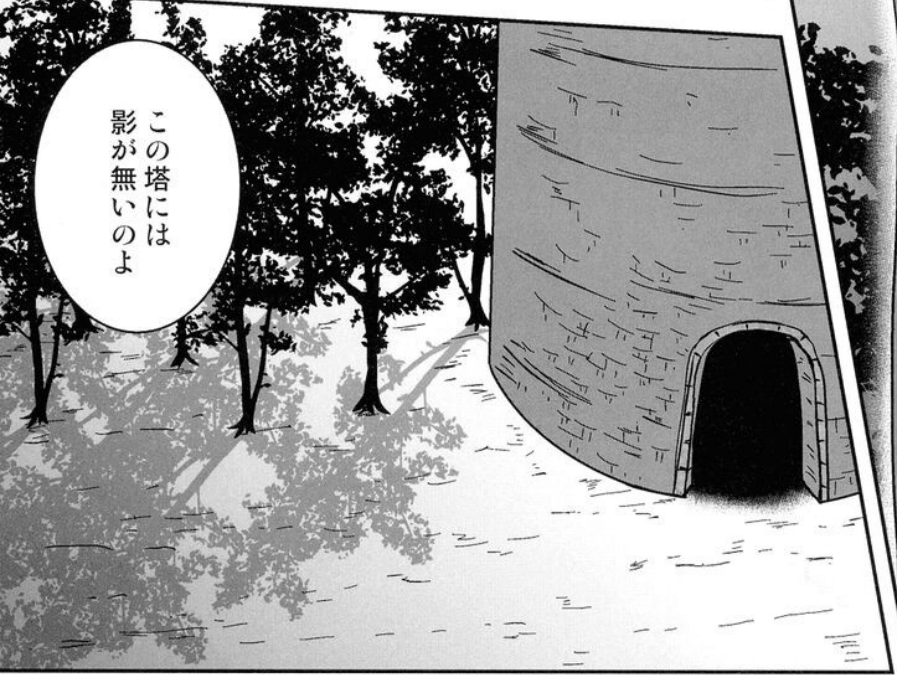
「集合知」って
なんでも書いて
あるのね



あ
気が
付いた？

そう

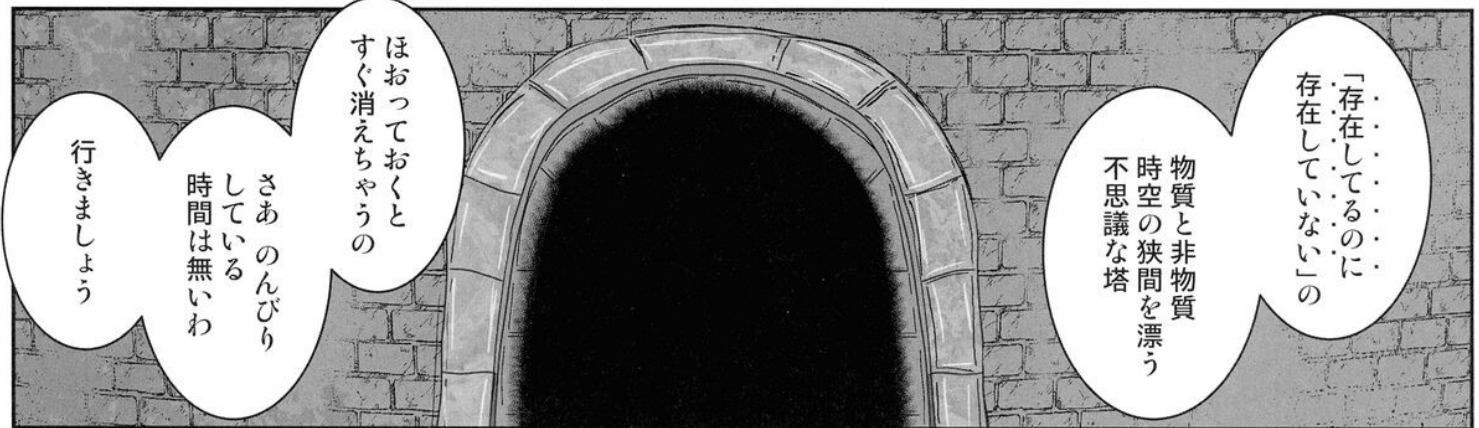
ボルック (伝令係)



この塔には
影が無いのよ



アウラ (高位魔法使い)



「存在しているのに
存在していない」の

物質と非物質
時空の狭間を漂う
不思議な塔

ほおっておくと
すぐ消えちゃうの

さあ のんびり
している
時間は無いわ

行きましょう

*「集合知(デラ・コンターロ)」: 多くの冒険者の知識が反映される情報端末

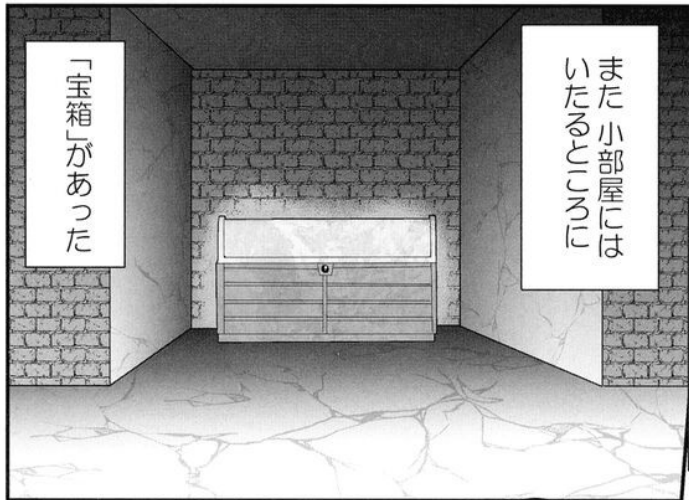


ボリックはこの
得体のしれない
塔に入ることに
反対をしようとした

しかし今日の
アウラはいつもと
どこが違うように
見えた……

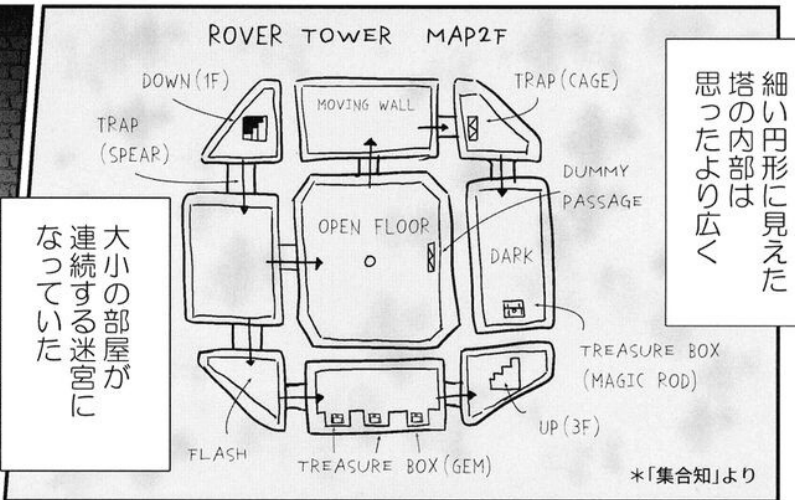
ボリックの直感が
「アウラと離れるな」
と叫ぶところ

黙ってついて
いくことにした



また小部屋には
いたるところに

「宝箱」があった



だから特に
ソロの
魔法使いに
とっては

夢の稼ぎ
場所

一獲千金



この塔の中は
貴重なアイテム
だらけなの

「狩」に行く
魔法使いは

モンスターを
魔法で仕留めるから
「ドロップ」が
手に入らないでしょ



アウラは的確に
正しいゲートを
選び

上階へと
足早に
進んでいく

宝箱は
また今度



なのにアウラは
一切宝箱に
興味を示さなかった

宝箱に
近づいちゃ
ダメよ

*一般モンスターを魔法で仕留めると、ドロップアイテムごと消えます。



それにしても
いったい今

何人ぐらい

この塔に
いるんだろう

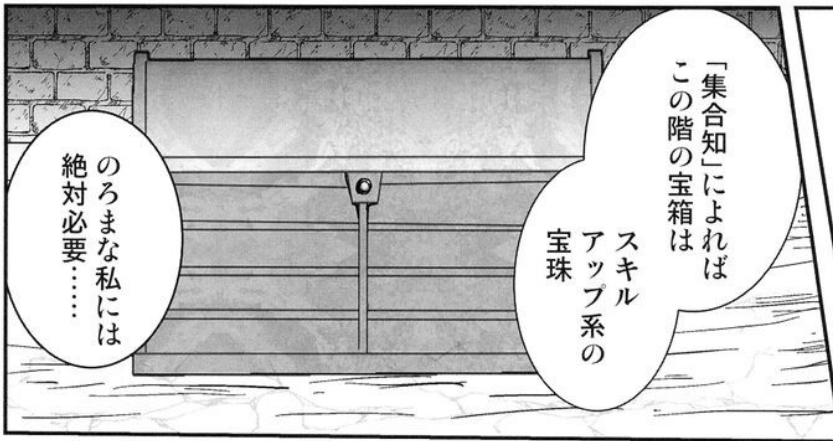


ポルック
こっち

そのゲートは
トラップ

通ったら
焼き鳥よ

!!
ウソよ



「集合知」によれば
この階の宝箱は

スキル
アップ系の
宝珠

のろまな私には
絶対必要……



一つでも
手に入りたい

お願い
開いて……

我は
ナ・ク
資格を持つ者
ラーヴァイス
封印の効力を停止する
オ・ル・リーズ



同じ時間

あった！
みつけた！

同じ場所

リサ (魔法使い)

女はすぐに
膨乳した
乳首からは
母乳が吹き出る

女のカラダが
強烈な快楽を
得ている証拠だ

この女は母乳が
よく出る
よほどこれまで
モンスターに

乳首を
犯されて
いるのだろう



女は 快楽で
痙攣しながら
簡単に孕んだ

犯され慣れた女は
マナの質こそは
良くないが
カラダの感度は高い

あつという間に
「食ハ」だ

ミミックは
自分よりも
大きな獲物を
呑み込んでいく





女は「情報として」知っていた筈だった

「いったら呑まれたら」そして

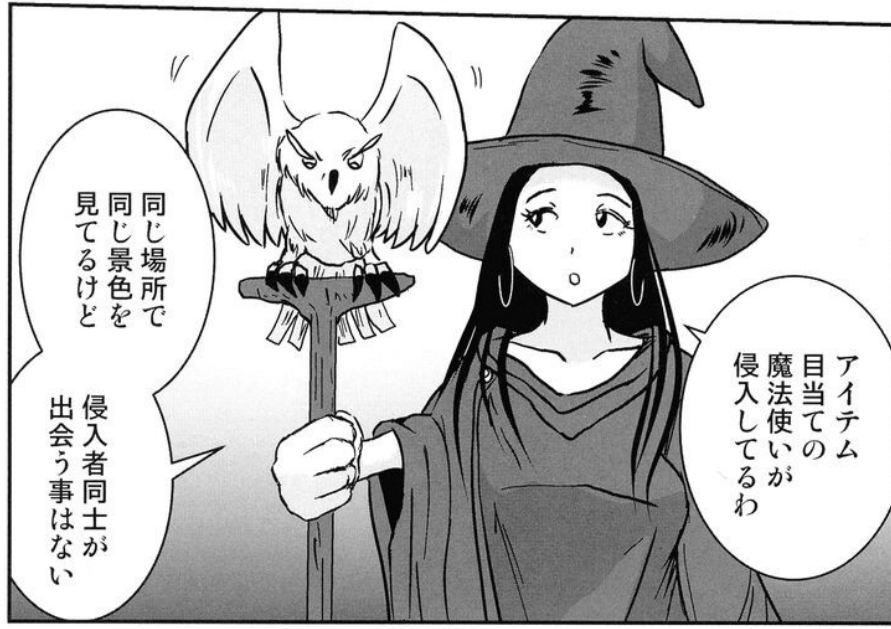
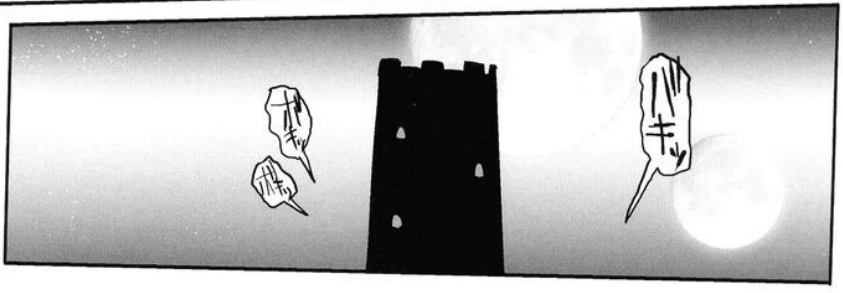
ミミックに呑まれたらどうなるか……



絶望すら快樂に変わっているのか

女は更に何度も絶頂しながら

ミミックの中に呑み込まれていった



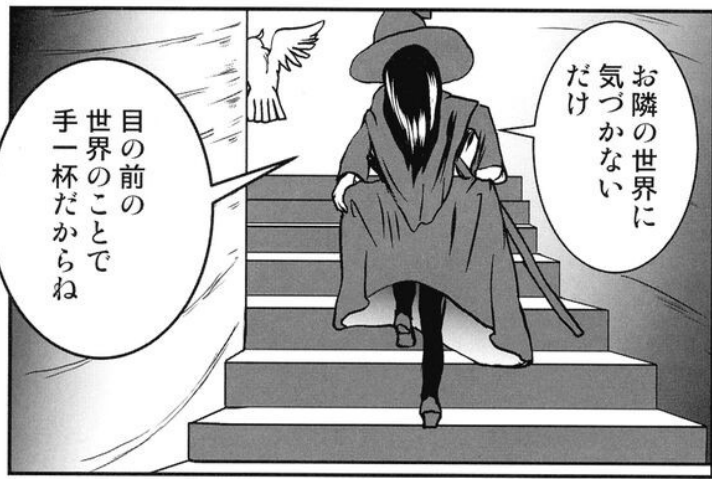
同じ場所で同じ景色を見てるけど
侵入者同士が出会う事はない

アイテム目当ての魔法使いが侵入してるわ



多分いまこの塔には多くの冒険者や

そう次元がズレてるのよ



お隣の世界に
気づかない
だけ

目の前の
世界のことで
手一杯だからね



そんなに
珍しい事じゃ
ないわ

私たちの
世界だって

他の世界が
並行してるのよ



「オーブ」よ

魔法使い
垂涎のアイテム

宝箱にすら
入ってない
なんて……



アウラたちは
塔の中腹あたりへ
と進んだ

うわ

露骨



見たところ
ばっちり
本物ね

あのオーブを
手に入れることが
できれば

未熟な
魔法使いでも

かなり
ハイレベルの
魔法が使えるわ



「集合知」のおかげで
誰でも有益な情報が
簡単に手に入るように
なったけど

「情報」を過信
しすぎると
目の前にある
モノについて

自分の意見を
持たなくなる



……でもね
あれは手に
入らないわ

そういう
ものなの



あざわら
嘲笑っている
みたいだ

まるで
オーブが

「おまえのような
未熟者がここまで
これたことが」

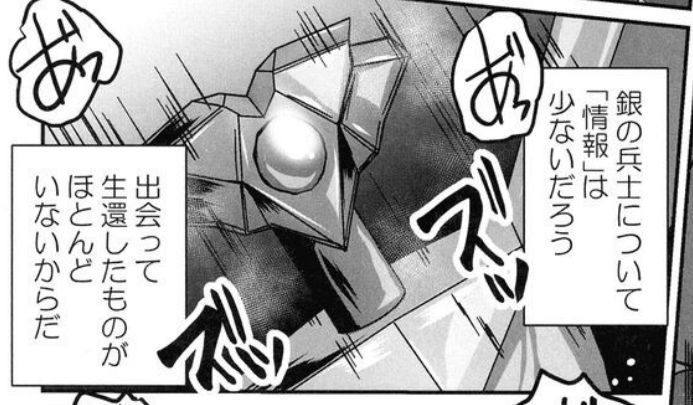
不思議だと
思わなかった
のか?」と...

銀の兵士について
「情報」は
少ないだろう

出会って
生還したものが
ほとんど
いないからだ

女は
あつという間に
孕まされ

母乳は
大量に
溢れ出す





何度も何度も
イカされ

絶頂に
喘ぐ

あああああ

はあ

あああ

あああ

ガッ

ガッ



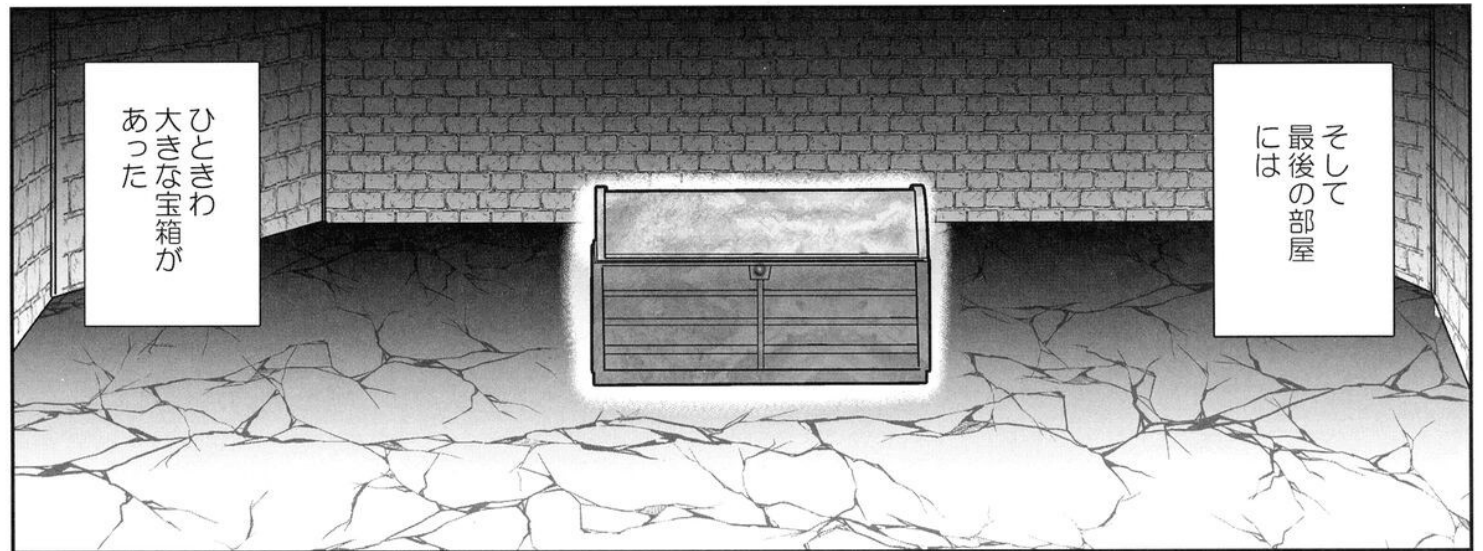
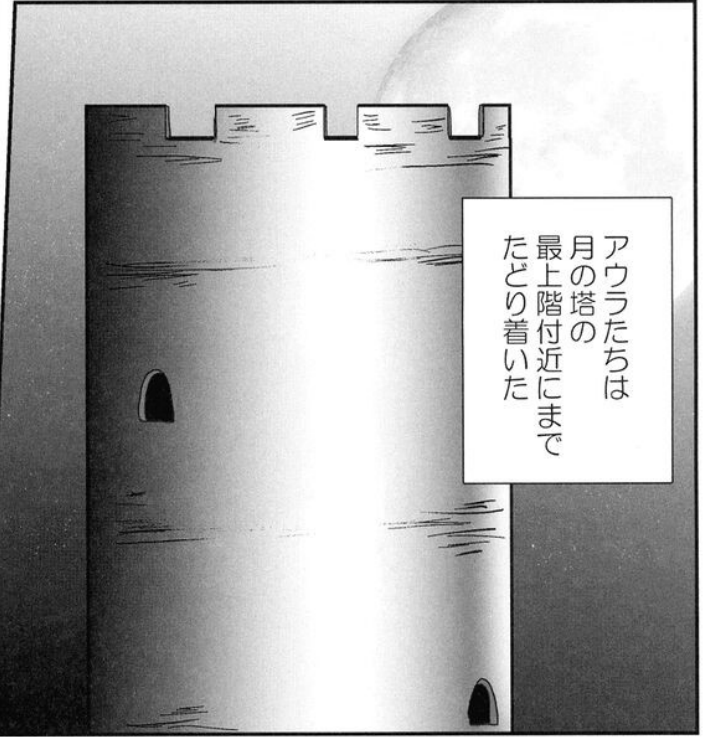
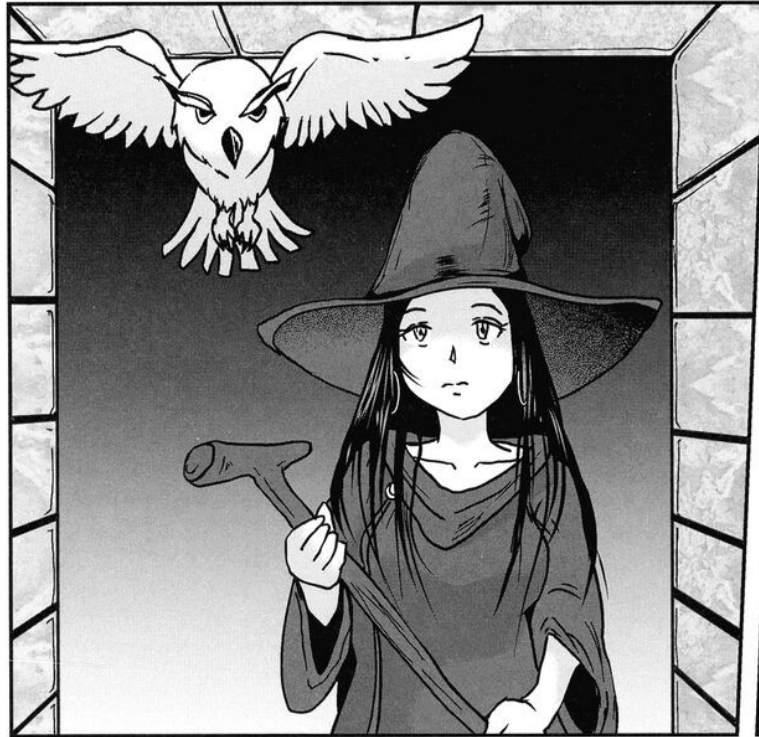
部屋の隅では
一匹のミニミックが

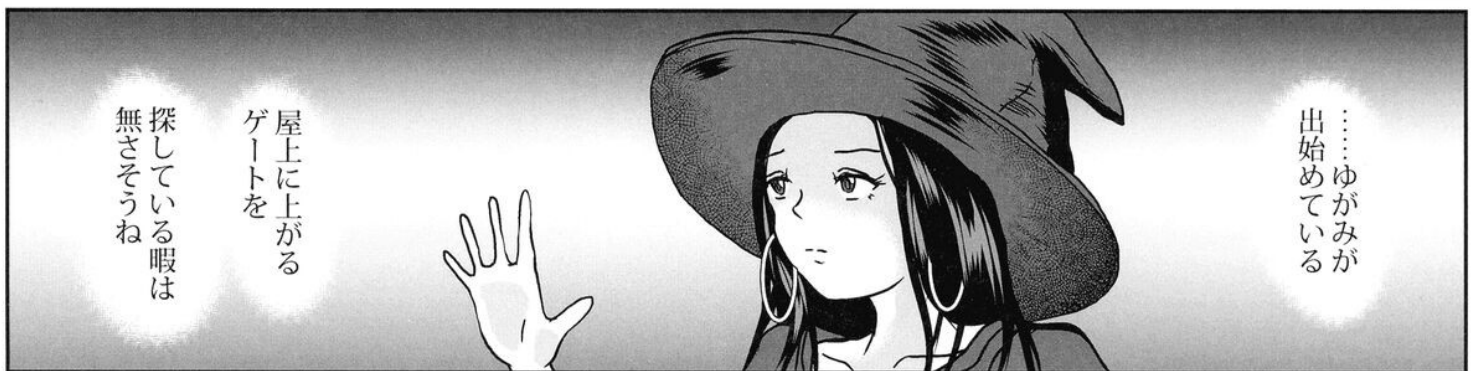
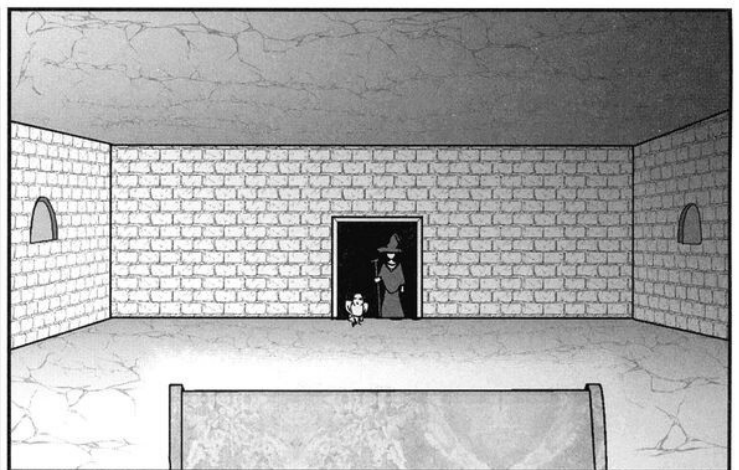
口を開けて
待っていた

ニャル

ニャル

ガッ







この塔に来た目的は「上位宝珠」を手に入れる事です

恐らくこの塔の屋上で月の光を浴びています

ホルック
あなたにその石をとって来てほしいの

大丈夫
難しい事は
ないわ



でもね
もう時間が
あまりないの

だから私は
あなたが石を
見つけられるように

時間を
稼ぎます



それとね

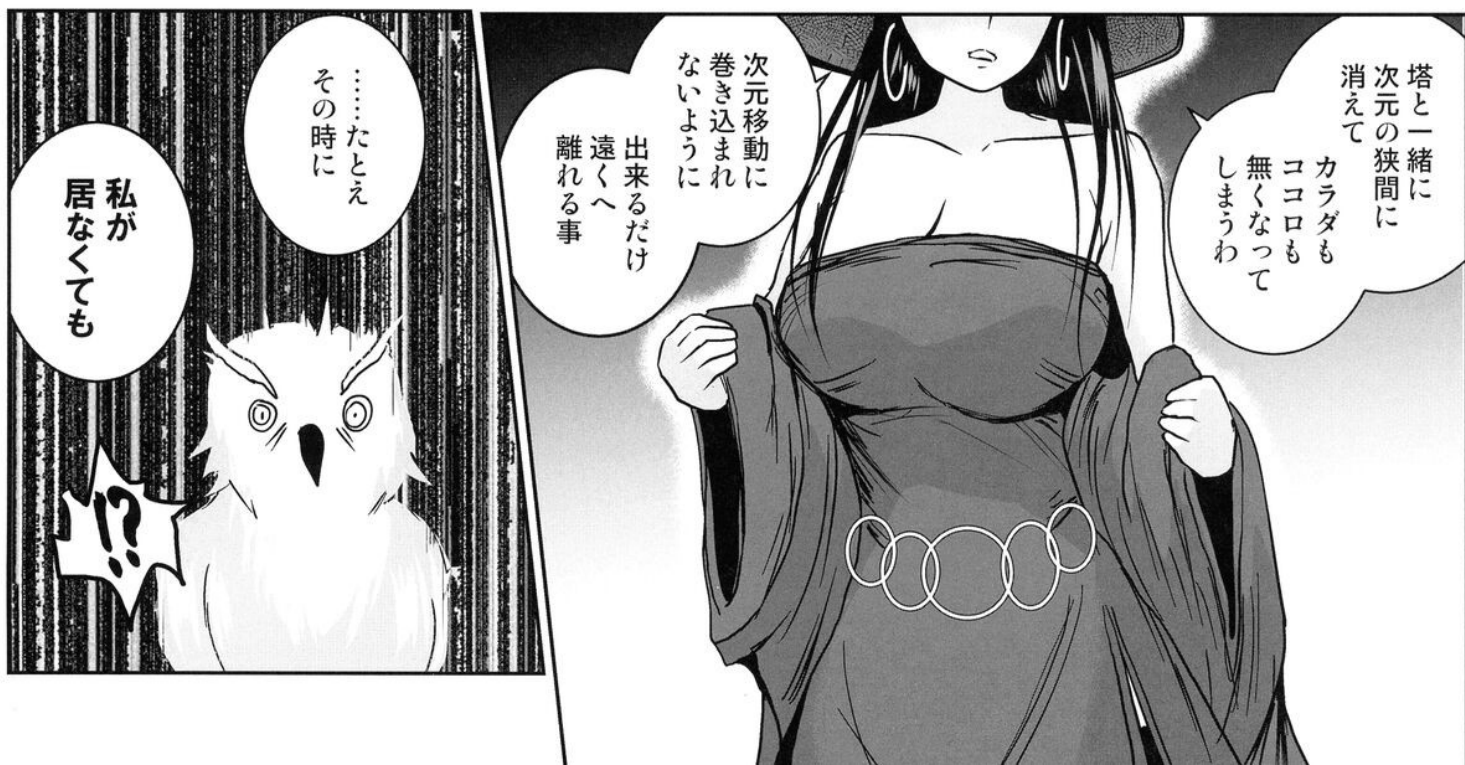
もしこの塔が
消えかかったら
あなたは

すぐに塔から
離れる事



アウラは
何をする気
なのだろう

今夜は嫌な
予感しかしない



塔と一緒に
次元の狭間に
消えて

カラダも
ココロも
無くなって
しまうわ

次元移動に
巻き込まれ
ないように

出来るだけ
遠くへ
離れる事

……たとえ
その時に

私が
居なくても







キスして



あなたを
タラム
解放します
リリースズ

愛の
アオ
トク
ラヨン

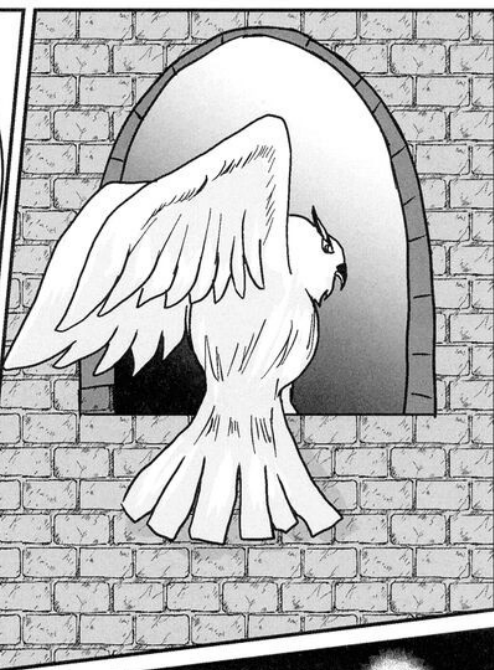


食後に

極上の
デザートは
いかが？

さあ
デイナーはまだ
終わらないわ

もう散々
食べた
ようだけど



ボルック

石を
頼んだわよ



ポルックは
焦っていた

一刻も早く
石を手に入れて

こんな場所から
アウラと脱出
しなくては

屋上にはアウラの
言った通りに
「貴重な石」らしき
ものが……なんと

たくさんある！
しかも原石の
ままだ!?

どれが
正解なんだ？

真ん中のは
宝珠じゃない

ブースター
増幅装置だ

アウラの研究室
にもある

どれだ？

どれでも
いいの？

いや……

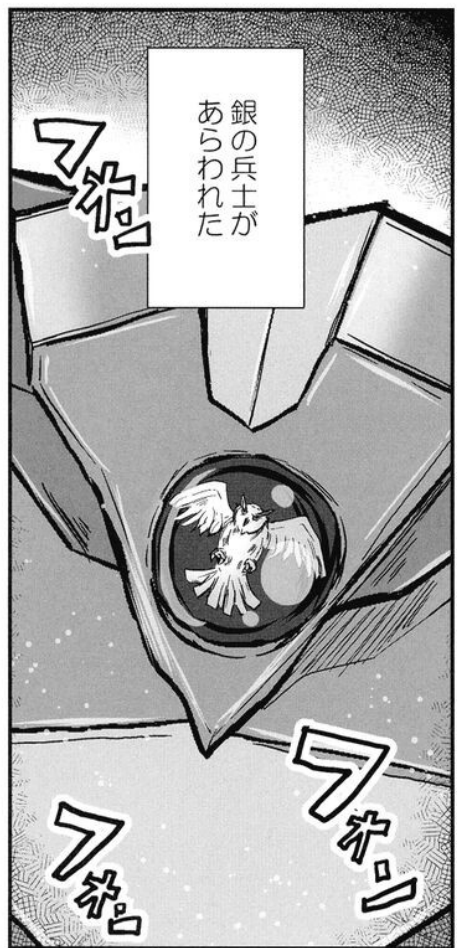
これだけ
明るい光に
照らされてるのに

「影が無い石」
が一つある

あれだ
間違いない

ポルックは
石にめがけて
急降下する

銀の兵士が
あらわれた





「時間を稼ぐ」

あ

はあ

あ

めい

あ

あ

アウラは自分が
犯されている
間は

塔が
消えない事が
解っていた

あ

しかし自分が
絶頂を繰り返し

ミミックに
呑み込まれ
意識を失い

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

「食事が
終わってしまえば
塔は消えて
しまっだろう」

あ



いったら
食われる

食われたら
塔が消える

ポルックの為に
時間稼ぎをする
アウラだが

ミミックの
強烈な刺激は
予想をはるかに
超えていた



乳房の中に
……

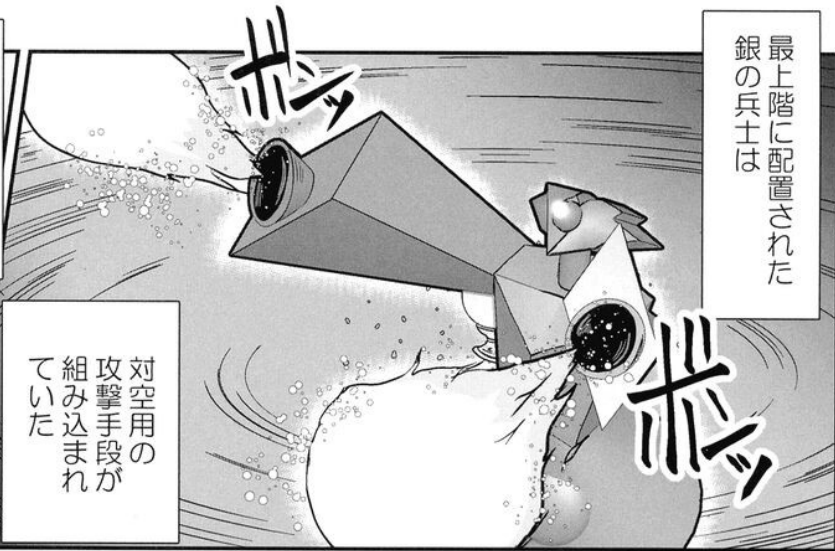
アウラの
体の中全てを
満たしていく



恐ろしい快樂を
もたらす精液が

膣内に
子宮の中に

最上階に配置された
銀の兵士は



対空用の
攻撃手段が
組み込まれ
ていた

ポルックは
必死に交わす
とても石に
近づけない



早くしないと
アウラが危ない
気ばかり焦る

しかし事態は
どんどん悪化
していく

銀の兵士の
数が増えて
行くのだ



攻撃は
激しさを増す

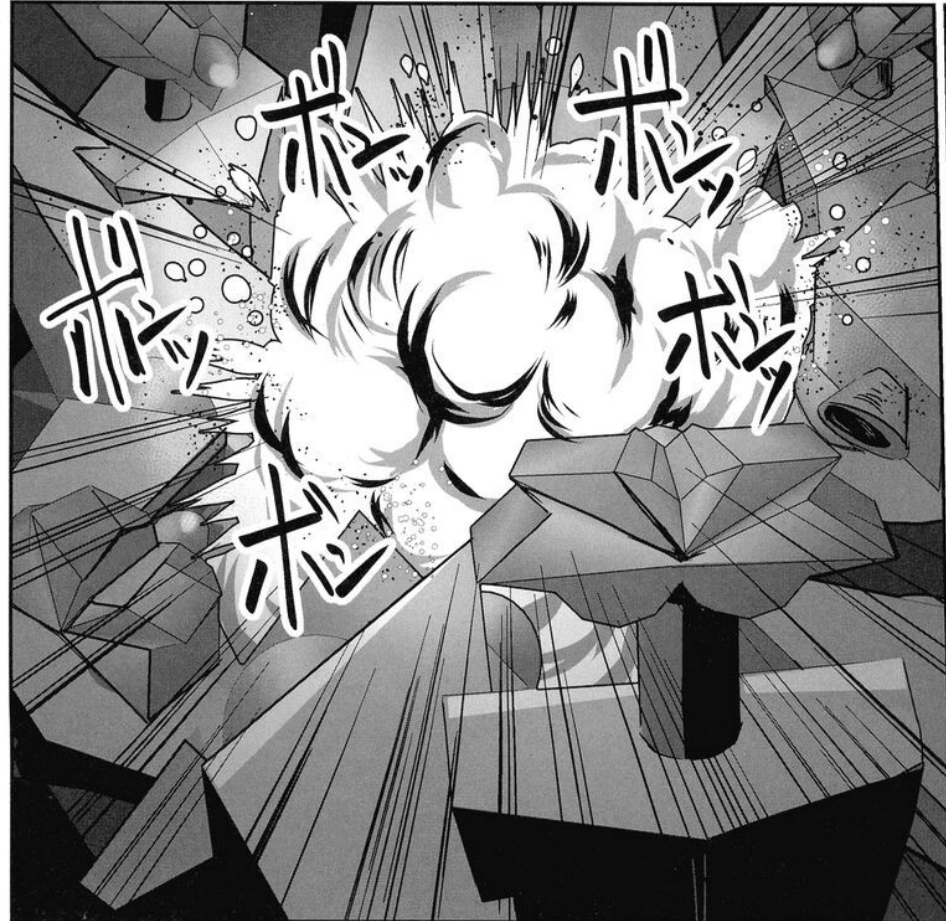
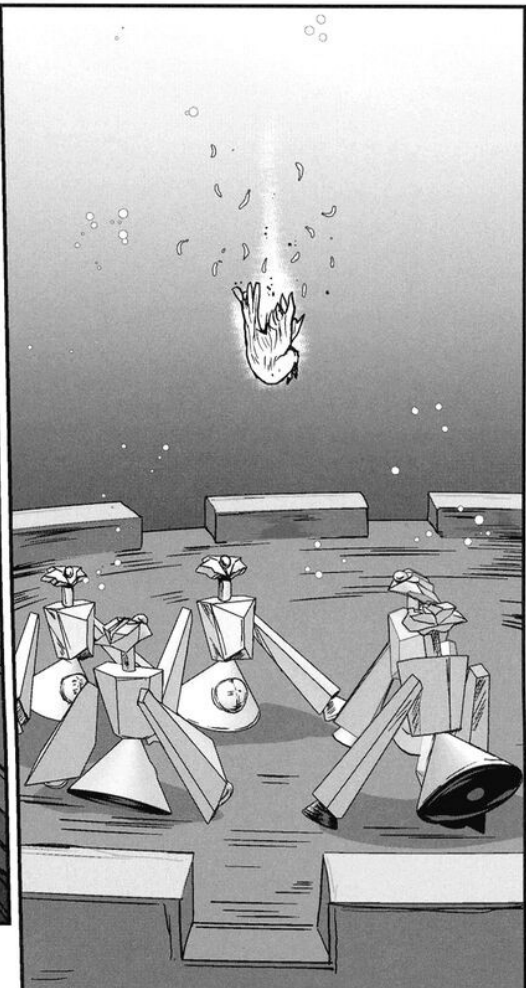
それでも
ポルックは
石を諦めない



……が
ついに
火の玉が

ブッ!!

ポルックに
直撃して
しまった





しかし
ミミックは
まだアウラを
呑まない

「この女がほ
もつマナを
搾り取れる」
踏んだのだ



「つまり
「ミミック」は
この塔の口であり

女たちから
吸い取ったマナは
この塔の「次元移動」
に使われる

しかし
「非物質界」で
女の肉体を
維持するのは
効率が悪い

なので「物質界」で
マナを一滴残らず
絞り取るために
最後に女を「壊す」



その
最後の激痛を
強烈な快楽に
変える為

女をイかせて
「塔の精液」と
女を溶け合わせる

「この女のマナは
実に質がいい
最後の獲物に
ふさわしい」

ダメ……

「最後の時」を
甘受する
準備が完了する

「食へ」だ

イかせられ続け
「塔の精液を受容
したアウラの体は
パンパンに膨らみ

蓋が
閉まっしよ

ミミックの



蓋は完全に閉まり
アウラは
呑み込まれた

箱の中では
絶頂が止まらな
なり失神寸前の
アウラが

なおもいき続け
体も心も服従した
濃厚なマナを
体中から吹き出す



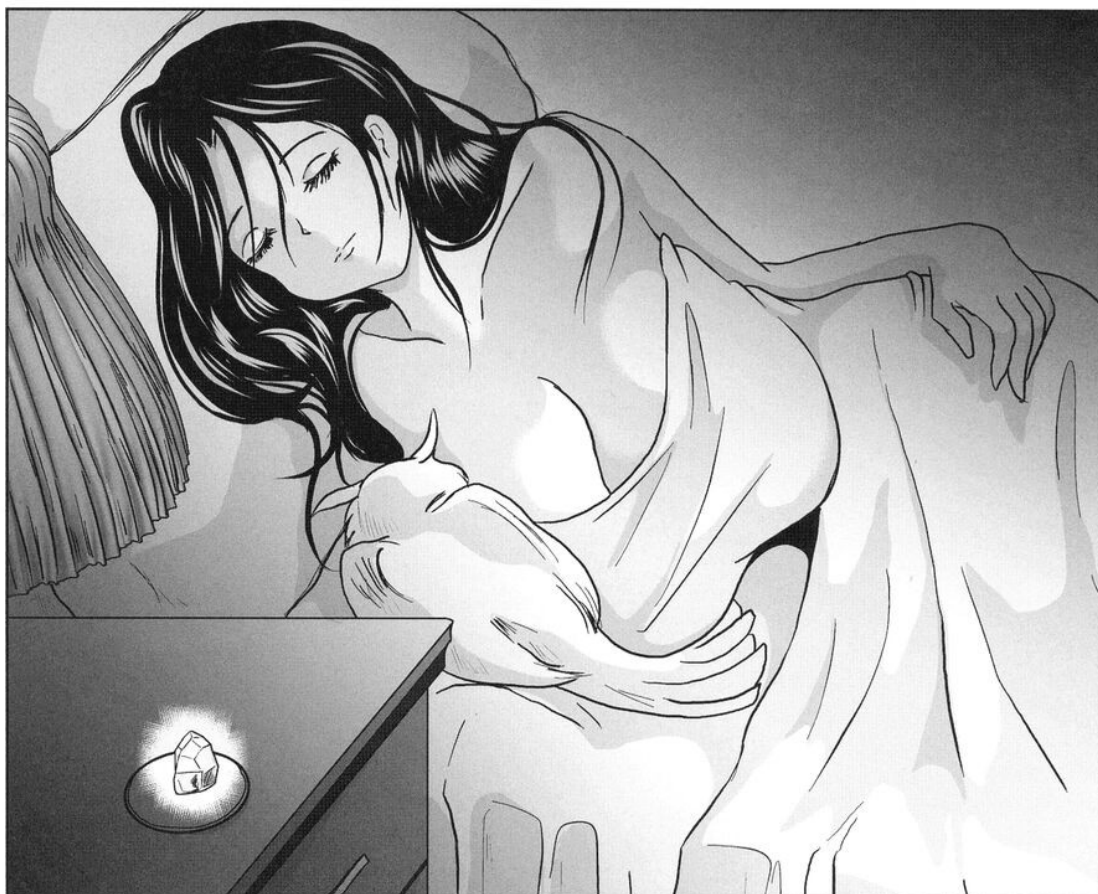
ミミックは
アウラの体に
触手を巻き付け
「絞る」準備をする

「さあ最後に
もう一絞り
この女の」

「肥沃で
芳醇なマナを
頂くとしよう」







物質と非物質の
狭間にあるという
「ムーンストーン」

まだ「若い」この石を
アウラは何故
そんなにも欲しがったのか

ポルックには
解らなかつたが

詮索する気も
無かつた

END

